

「意義ある人生を考える」

ニューヨークで行われた、
シュューラー・ホールSchuyler
Hall学生センター主催の人生
講座「日常生活の意味を考える」に、学生や若い社会人が
多く参加した。

2004/06/02

ニューヨークは世界でも有数の活気に満ちた街です。ところが、何処へ行っても人々は忙しく、人生の意味をじっくり考えたり、充実した人生

を送るために何をすべきかを考えたりする余裕がありません。このような人々のため、シューラー・ホール学生センターは、「日常生活の意味を考える」と題した講座を主催し、学生や若い社会人が多く参加しました。

講演したのはデイヴィッド・ギャラガーDavid Gallagher教授です。アメリカ・カトリック大学哲学教授で、今はニューヨークで働いています。長年、大学生と付き合ってきた経験から、この講座を思いつきました。

「私は、何百人もの大学生と何年も接してきました。学生の多くが、人生の意味をゆっくり考える時間が欲しいと訴えていました。そこで私は考えました。友情、徳、仕事と余暇、そして神など、人生で避けて通れない問題についてガイドラインを示し、学生を助けることができないものか…とね。」

そうして出来たのがこの講座です。講話と質疑応答からなる、5回シリーズです。テーマは、「自由と自己決定－人生プランをつくる」「生きることは真剣勝負－仕事と余暇の両立」「人のために生きる－友情と充実した生き方」「徳を身に付ける－目指す理想像」「神と人生の意味」、以上の五つです。

講話は、机上の空論にならないように、実践的な内容になっています。ギャラガー教授は次のように説明しています。「この講座が、単なる素晴らしい学説の紹介に始終しないように気を付けました。理論には触れますが、目指しているのは、もっと具体的なことです。将来を設計するための精神的な道具を提供して、参加者が自分自身の人生を考えるように励ますことです。『今日から人生に対する見方が変わった！』と言えば大成功です。あるいは、『あるテーマについて、じっくり考えた

い』と考え始めたら、しめたものです。」

参加者は、講話と講話の間に思いついた疑問について考え続け、本を読んで調べることができました。また、大きな図書室が開放され、ビクトル・フランクルの『意味を探す人間』、C. S. ルイスの『人間廃止』、トマス・アキナスの『異端反駁』などが紹介されました。

自由

ニューヨーク大学で数学を専攻するサム・フライドは、この講座から大きな収穫を得て、次のように話してくれました。「自分の人生についてじっくり考え、将来に対して具体的な夢を描くことが出来ました。」会計士のダニエル・リーは、「特に『仕事と余暇の両立』の話がよかったね。おかげで自由時間について一石を投じてくれました。充実した人生を送るために、自由時間を活用す

ることがとても大切だと分かりましたよ」、と教えてくれました。

参加した人の多くは、次に友達を誘って参加しました。どうして人生の意味に関する質問が大切ですか？教授は次のように答えています。

「自分の人生について考えない人、自分が何処へ行こうとしているかを知らない人は、周囲の状況に人生を左右されることになります。真の自由とは、外部の状況に左右されないで、自分自身が『決める』ことです。状況に流されるのではなく、逆に自己の意思決定により状況に立ち向かって行くことに、自由の真価が発揮されるのです。」